

ゆずの風新聞

令和8年
2月・3月の号
発行：馬路村農協

ももく堆肥

昨年11月にゆずを搾ったあとに出た皮・種を、鶏糞・杉の皮と混ぜて堆肥づくりをしています。
発酵がどんどん進み、白い湯気もくもく立ち上るの
が、この季節ならではの風景です。

←堆肥をかき混ぜると暖かい白い煙がすごい勢いでまいます。



★1つ星受賞!!!

あとうんアールグレイ

グレートテイストアワードにて「あとうんアールグレイ」が1つ星を受賞しました！

グレートテイストアワードは、500名以上の専門家が商品名や産地を伏せ、味だけで審査する世界で最も信頼されている食品認定制度です。2025年は14340品が出品され、その中で、日本・高知県産の紅茶が評価されたことは、大きな快挙です。

審査員からは「ゴールデン・アンバーの紅茶液を抽出する魅力的なリーフ」「香り高い紅茶の香りが口いっぱいに広がります」「ミルクを入れて試飲したところ、ボディとベルガモット本来の香りとの調和が楽しめました」と好評なようで、そんな高知の西と東の阿吽の呼吸で完成したあとうんアールグレイを是非ご賞味ください。



馬路村村民 駅伝大会

1月17日、馬路村で村民駅伝競走大会が開かれました。空は青空で日差しは良く、走るには最高のコンディション。小学生から60代まで、13チーム65人が村内8.9kmを元氣いっぱい走りまわりました。



優勝は馬路スポーツ少年団Aで36分48秒。やっぱり子どもたちは速いですね。私は「まくり大作戦」チームの4区、1.7キロを担当しました。

普段はデスクワークばかりで、正直ちゃんと走れるか心配していましたがおじちゃんおばちゃん「がんばれー！」に背中を押され、7分40秒、区間7位で無事ゴール。

応援されながら走る気持ちよさと、体を動かす楽しさを改めて感じた1日でした。



2025年

ゆずを振り返る

2025年のゆずは、例年に比べて色つきが遅く、収穫初期は厳しい状況が続きました。10月末時点では、11月3日の「ゆずはじまる祭」で販売する新酢のゆずしぼりと、ゆずしぼり体験用のゆずが足りるか足りないかという集荷量しかなかく、当初計画していた「搾りたてごっくん」の企画も実施を見送る状況でした。

しかし11月7日を過ぎた頃から、ゆずは示し合わせたかのように一気に黄色く色づき始め、集荷量も急激に増えていきました。加工場では朝から晩まで搾っても搾ってもゆずがなくならず、ゆず農家の皆さんからも「採っても採っても無くならん」と嬉しさと驚きの声が聞かれました。色づきが遅れた影響で収穫は長引き、当初12月2日としていた集荷最終日は12月8日まで延びました。

ゆずの木には、実のなりが少ない「裏年」と、多く実る「表年」があり、年によって収穫量に波があります。2025年は結果的に集荷量の多い年となり、自然の変化に翻弄されながらも、その恵みを受ける一年となりました。

自然相手の難しさを感じる一年であると同時に、ゆずの持つ力強さを改めて実感した年でもありました。



ぼん酢しょうゆ ゆずの村40周年

1986年、高知県・馬路村で生まれたぼん酢しょうゆ「ゆずの村」は、おかげさまで40周年を迎えることができました。長い年月にわたり、支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

ゆずの香り、ほどよい酸味と苦味、鰹と昆布だしの旨味のバランスにこだわり、料理の味を引き立てる一本として変わらぬ製法を守り続けてきました。

1988年の「日本の101村展」大賞受賞をきっかけに、多くの方に知っていただき、鍋料理や日々の食卓で親しまれる存在となりました。

これまでのご縁に感謝しながら、これからも馬路村らしいものづくりを大切に、皆さまの食卓へお届けしてまいります。



おーの嬉しい おたかごんソーサー

なんでもハガキ

おーの嬉しいとか、もつと頑張れとか、なんでも使えるハガキです。

ごっくん だいりけ
ごっくう せいむり
だいりけ せいむり
ごっくう せいむり
ごっくう せいむり
ごっくう せいむり
ごっくう せいむり
ごっくう せいむり
ごっくう せいむり
ごっくう せいむり

①以下の資料をご希望する方は(○)を付けてください。
ゆず製品のパンフレット (○)
馬路村のパンフレット ()

馬路温泉

つるつるのお湯でゆったり。食事、宿泊もできます。

電話番号

0887-44-2026

予約専用フリーダイヤル

0120-44-2026

会社を元気にする
エコアス馬路村



<http://www.ecoasu.co.jp/>

編集後記

皆さんは「ポケふた」をご存知でしょうか。各県にゆかりのあるポケモンが公式に割り当てられたマンホールのごです。

高知県では、清流を泳ぐイメージから「ヌオー」が選ばれ、現在はポケふたスタンプラリー(3月15日まで)も開催されています。設置場所は、東は東洋町から西は柏島まで、県内各地に広がっています。

私も休日のドライブがてら15か所を巡ってみました。普段はなかなか行かない場所を訪れるきっかけになるのが魅力です。特に馬路村から柏島までは片道230kmと簡単には行きません。

また、観光地とコラボした絵柄がとても素敵で、まるでその場所にヌオーがいるかのように感じられます。皆さんも高知に来られた際は、ぜひ立ち寄ってみてください。

